

19. 仁徳陵古墳模型

大山古墳・大仙陵古墳とも呼ばれる仁徳陵古墳は、堺市にある5世紀の前方後円墳です。墳丘の長さは486m、後円部の高さは35mという、世界最大規模の墳墓です。仁徳陵古墳の築造にかかった時間は現在の建設会社の試算によると15年8ヶ月、造営にたずさわった人数は延べ680万7千人とされています。

この模型は、この巨大な古墳を150分の1の大きさで再現しています。また、周りには実際に周辺に位置する陪塚（ばいちょう）といわれる古墳のほか、豪族の居館、古墳の造営に関わる諸施設と古墳造営の様子が、日本列島各地での発掘の成果を元に復元されています。長期間にわたる工事ですので、古墳築造に携わった人々は近くに寝泊まりしていたことでしょう。埴輪づくりをおこなった工房や鉄器の工房など、多くの工人が働く古墳造りを支える工房などが近くにあったと考えられます。模型にはこうした工人たちの村や工房なども復元されています。

陪塚は、大型古墳の周りに計画的に配置されたと考えられる古墳のことです。大型墳の被葬者につかえた人々たちの墓と考えられる場合もありますが、大型墳の副葬品のみを納めたと考えられるものもあります。この模型では、こうした周囲の陪塚に墳丘の造成から葺石の敷設・埴輪の配列などの古墳の築造過程、埋葬に伴う儀式やその過程などを想定し、復元しています。